

みんなのデジタルリポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Postscript

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-11-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00008665

編集後記

本書は、2002年10月24～28日の5日間、札幌平岸の高台にある札幌市天神山ゲストハウスで開催された、The Raven's Arch: Jesup North Pacific Expedition Revisited (1902–2002); 「渡鴉^{ワケリガラス}のアーチ：ジェサップ北太平洋調査を追試・検証する (1902–2002)」と題する国際シンポジウムの「日本語版」報告書である。

まず、シンポジウムの全容を紹介するため以下にプログラムを転載する。

KEYNOTE SPEECH

FROM JESUP-1 TO JESUP-2: THE CENTENNIAL DECADE (1992–2002) REVISITED. Igor Krupnik (Washington, USA)

“THE RAVEN’S TRANS-PACIFIC REALM: 100 YEARS AFTER JESUP”

SEALS, SHELLS, AND SALMON. THE ORIGINS AND DEVELOPMENT OF MARITIME LIFEWAYS IN THE NORTH PACIFIC: 100 YEARS AFTER JESUP. David Yesner (Anchorage, USA)

THE NORTH PACIFIC RIM AS A LINGUISTIC “OLD WORLD”. Osahito Miyaoka (Osaka, Japan)

PACIFIC AND CONTINENTAL MOTIFS IN SIBERIAN, JAPANESE AND NATIVE AMERICAN FOLKTALES: TWO ROUTES OF EARLY MIGRATIONS ACROSS ALASKA? Yuri Berezkin (St. Petersburg, Russia)

RAVEN AND THE HIDDEN SUN: A COMPARATIVE STUDY OF THE RAVEN CYCLES ALONG THE NORTHWEST COAST OF NORTH AMERICA WITH SPECIAL REFERENCE TO THE CROW MYTHS IN EAST ASIA. Machiya Mashiko (Kanazawa, Japan)

REVIVING AINU IDENTITY DURING THE LAST FIVE DECADES: AN OVERVIEW ON THE REANIMATION OF THEIR ANCESTOR WORSHIP CEREMONY. Hibiki Momose (Iwamizawa, Japan)

JESUP COLLECTORS AND COLLECTIONS IN A CENTENNIAL PERSPECTIVE

SCIENCE AND LIFE: RE-READING WALDEMAR JOCHELSON’S JESUP EXPEDITION CORRESPONDENCE. Nikolay Vakhtin (St. Petersburg, Russia)

THE LEGACY OF THE JESUP EXPEDITION IN SOUTH CENTRAL BRITISH COLUMBIA: A CENTENNIAL OVERVIEW. Wendy Wickwire (Vancouver, Canada)

JESUP COLLECTIONS IN RUSSIA, 1902–2002: A LIFE “AFTER JESUP”. Elena Mikhailova

and Julia Kupina (St. Petersburg, Russia)

“RAVEN’S BOX OF LIGHT”: DATA AND IMAGES OF THE JESUP EXPEDITION
COLLECTIONS ON THE WEB. Barbara Mathé (New York, USA)

“SONGS FROM THE HOUSE OF THE DEAD”: SHAMANIC VOICES AND WAX ECHOES.
Thomas Miller (New York, USA)

JESUP COLLECTIONS FROM AMUR RIVER-SAKHALIN AREA IN THE US. Tatyana
Roon (Yuzhno-Sakhalinsk, Russia)

“CROSSROADS ALASKA-SIBERIA EXHIBIT”: BRINGING OBJECTS BACK ACROSS
THE PACIFIC. Olga Shubina (Yuzhno-Sakhalinsk, Russia)

IN THE JESUP FOOTSTEPS: PROJECTS OF THE “JESUP-2” DECADE, 1992–2002

NOTES ON AN EFFECT TO “VIRTUALLY REPATRIATE” PHOTOGRAPHS FROM THE
JESUP COLLECTION. Nelson Hancock (New York, USA)

HOW ELDERS LISTENED TO BOGORAS’ AND JOCHELSON’S RECORDINGS: SOUND
CULTURE OF THE NORTH PACIFIC. Kazuyuki Tanimoto (Sapporo, Japan)

FOLLOWING WALDEMAR JOCHELSON: JESUP-KOLYMA REVISITED (1901/02–2000).
Sergei Slobodin (Magadan, Russia)

HOUSEFORM AND CULTURE: COMMONALITIES AND DIVERGENCES IN
DWELLINGS ACROSS THE NORTH PACIFIC RIM. Molly Lee (Fairbanks, USA)

A DECADE OF CENTENNIALS (1992–2002). RECOGNIZING HISTORIES, INDIGENOUS
IDENTITIES AND SCHOLARSHIP IN THE NORTH PACIFIC. David Koester
(Fairbanks, USA)

REMEMBERING AND FORGETTING: CULTURE CHANGE AND INDIGENOUS
KNOWLEDGE IN CHUKOTKA IN THE POST-JESUP ERA. Igor Krupnik (Washington,
USA) and Nikolay Vakhtin (St. Petersburg, Russia)

CULTURAL CHANGES AMONG THE REINDEER CHUKCHI: A COMPARISON
BETWEEN BOGORAS’ ETHNOGRAPHY AND CONTEMPORARY ETHNOGRAPHY.
Kazunobu Ikeya (Osaka, Japan)

INDIGENOUS TRADE AND SOCIAL CHANGE IN THE BERING STRAIT REGION
DURING THE 18th AND 19th CENTURIES. Nobuhiro Kishigami (Osaka, Japan)

IN THE JESUP AREA: RELATED RESEARCHES CONDUCTED

HUNTING-FISHING SYSTEMS AND SEASONALITY OF THE INDIGENOUS PEOPLES
IN THE RUSSIN FAR EAST: FROM THE CASES OF THE UDEGE ON THE BIKIN
RIVER AND THE NANAI AND UL’CHI ON THE LOWER AMUR BASIN. Shiro
Sasaki, Hiroyuki Sato and Hiromi Taguchi (Osaka & Tokyo, Japan)

THE INTERACTION BETWEEN THE HERD MANAGEMENT AND THE CURRENT
TRUST RELATIONSHIPS OF HORSE HUSBANDRY IN CENTRAL YAKUTIA. Hiroki
Takakura (Sendai, Japan)
A CENTURY OF UILTA (OROK) REINDEER HUSBANDRY ON THE ISLAND OF
SAKHALIN. Koichi Inoue (Sapporo, Japan)

予定された報告は24件、報告予定者は通算23人であった。報告者を国別にみると米国7、カナダ1、ロシア6、日本9、まさに「渡鴉のアーチ」を具現する構図である。しかし、ウィクワイアー氏は残念ながら姿を現さず、フィールドワークに入ったカナダ奥地から欠席メールが届いた。また宮岡教授も直前になって体調を崩され、参加は見合わされたものの、報告原稿はヴァフチン氏によって代読された。したがって、シンポジウム会場では23件の報告と、それぞれに対する質疑応答が、5日間にわたって展開されたわけである。

札幌シンポジウム第4日、10月27日(日)の午後は、「アイヌ文化をめぐる新旧両大陸の対話」と題する公開講演会に充てられた。会場の北海道大学学術交流会館に参集した一般市民は、萱野茂氏(北海道、二風谷)、チュウネル・タクサミ人類学民族博物館前館長(ロシア、サンクトペテルブルグ)、ウィリアム・フィッツヒュー・スミソニアン研究機構極北研究センター所長(米国、ワシントン)の蘊蓄に耳を傾けた。公開講演会は、札幌シンポの会期後、網走の北方民族博物館でも行われた。

一方、北海道大学総合博物館では、早くも10月7日から29日までの日程で、ジェサップ調査「終了100周年」記念行事として写真展「渡鴉のアーチ」が実施された。同展では、ニューヨークのアメリカ自然史博物館所蔵「ジェサップ調査」関連写真(35点)と、写真家・故星野道夫氏が「ジェサップ領域」で撮影した関連写真(25点)が、大小のパネルで公開されて壮観であった。写真展もやはり、網走の北方民族博物館で引き続いて挙行された。

クルプニク氏の巻頭論文が記すように、札幌シンポジウムは、フィッツヒュー、クルプニクの両氏が推進した「ジェサップ2」事業(The Jesup-2 Decade — 1992-2002)の終幕を飾る、同事業の「第5次」国際集会に当たる。札幌シンポ誕生の経緯について詳細はクルプニク論文に譲るとして、私たちは当初、まさにそのアイデア誕生の場である網走の北方民族博物館こそ、そのオホーツク海に面する立地といい、また博物館としての性格からも、最適の条件を備えた主催機関であると確信していた。しかしながら、同博物館からは、館自体の事業計画にもとづく年次シンポジウムの企画実行を原則とするため、外部企画を受け入れる余地はない、との最終判断が伝えられた。そこで私たちは次善の策として札幌を選定し、シンポジウムの実行主体としては、有志者で組織する「美

行委員会」を発足させることを決断した。2001年11月、12名の有志を募り「実行委員会」を立ち上げて、谷本氏が実行委員長、私は事務局長に就任する。「ファースト・サーキュラー」を発信したのは翌2002年1月5日のことである。しかし、それからが正念場である。私たちを待ち受けたのは、シンポジウム実施に要する経費を確保すべく浄財を求めての行脚であった。「ジェサップ2」事業の「第5次」国際集会とはいえ、同事業からの財政支援は一切なく、独立採算が原則だったからである。

とはいえ「案ずるより産むは易し」であった。有難いことに、私たちの事業企画へ向けられた札幌の経済界や言論界の眼差しは頗る暖かく、寄付金の総額はシンポジウムの直前までに必要とする額を満たすこととなる。御支援を賜った機関や団体は、クラブニク論文に明記されている（本書7頁）のでここでは繰り返さないが、この場をお借りしてすべての方々に対し、改めて厚く御礼申し上げたい。

クラブニク論文も記すように、シンポジウム最終日（10月28日）の総合討論において、シンポジウムの報告書はそのメッセージの重要性と時宜性に鑑みて、日本語版と英語版の2種類を公刊、前者は日本側が、そして後者はスミソニアン側で、それぞれに責任をもって上梓することが合意された。本書は、6年の遅れを伴うとはいえ日本側の責任を全うするものである。クラブニク氏は最近、フィッツヒュー氏の後任として極北研究センター所長に就任された由、御同慶の至りである。そのため同氏の激務はさらに倍加すると拝察されるが、英語版の出版が遠からず実現するよう願ってやまない。

日本語版に関しては、一定期限内に完成稿が送付されたものを採用すること、特にロシア人報告者に対してはロシア語稿の提出も可、という条件を提示した。その結果、提出された完成稿が、本書に収録する14点にほかならない。

その際、日本人報告者には、英文の報告稿を自前で邦訳して完成稿を提出するよう要請した。提出のなかった事例の多くは、同主旨の論文を既に日本語で発表しているため、敢えて邦訳する意味がないという理由によるようである。なお、収録された日本人著者の邦訳論文に訳者名が欠如するのは、著者本人の手になる翻訳であることを意味する。

外国人報告者が提出した英文（露文）原稿の邦訳については、迅速な公刊を目指す意味で、幾人かの仲間に和訳作業への協力を求めたものの、イエスナー論文以外はすべて断られてしまい、結局、私がほとんどを和訳する羽目に陥った。本書の刊行に大幅な遅延をもたらした一因である。

最後に、タクサミ論文収録の経緯と同氏へのお詫びを申し述べたい。タクサミ氏はシンポジウムで報告しておられないが、10月27日の公開講演会での講演内容をまとめたロシア語稿を、帰国に際して私に託されたので、収録させていただくことにした。しかし、そのときに預かった2葉の写真と複数の図版が、私の引っ越しに起因する混乱のなかで所在が不明となった。紛失が明らかとなった時点で、氏には再度の提出を懇願した

ものの、到着せぬまま脱稿を迎えてしまった。タクサミ氏ならびに読者各位の御寛恕をお願い申し上げる次第である。

2009年2月28日

井上 紘一